

演出の記録ー「マナちゃんの真夜中の約束・イン・ブルー」2019 より

2025 年 8 月 28 日 久保山ワタル

演劇の面白さは「演出を発見すること」にある。



・光る灯籠

透明なプラスチック段ボールで作った立方体の中に、クリスマスイルミネーションを入れた光る灯籠を作った。劇中でリモコンを持った登場人物が明かりを点滅させたり、消したりした。暗転の時は灯籠の光だけが残って、幻想的な雰囲気を作った。

・ベッドに乗る

その前に後ろの人物が、背中を見せてから、上に乗る。すると手前の人物がベッドに腰かけて、列車に乗っているように見えたり、目まぐるしくセットが変わる。お客さんに驚きがある。他にも箱の上に乗る、というのもある。この劇では本当に多用した。

・役者を観客にする

ベッドの上で、演説を始めると、お客さんになる。セットとあいまって、三角形が二つ重なったように見える。面白いミザンス。

・一人を取り囲む

ミザンスの位置が次々と変わるので印象に残る。演劇とは主人公を困らせることなので、こういうミザンスを取ることで、主人公を追い込むことにつながる。さらにこの後、主人公の周りを指でっぽうしながら回転することで、印象を強めた。



・ロッカーから出てくる

しかもカエルのぬいぐるみをもって出てくるので、インパクトが強くなる。ロッカーがカエルと同じ色なのも面白い。ロッカーから、マナちゃん以外は全員が出るシーンがあった。これは脚本にはない演出。



・においをかぐ

マナちゃんの布団にヒロハルが入って、においをかいだ。セクハラギリギリをつく。幻想的な話から、下ネタへの落差。



・踊って、ぬいぐるみを放り投げる

においをかいで興奮したヒロハルが、カエルをぶん回して踊って、カエルを放り投げた。

感情を解放するカタルシス、意外性のあるリアクション、放り投げた人形に対するミザンスの変化が面白い。



・床や箱を手足でどんどん鳴らす

リズム感が出て面白い。床を楽器として使用することが楽しい。これも多用。



・舞台の面と後ろを人が互い違いに行ったり来たりする。

手前の人物が上下を移動する間に、後ろの人物が下上と逆に移動する。さらにぬいぐるみで隠れようとする動作をしたり、この後手前の人物の布団に潜り込むなど、お客さんの想像を超える動きをする。

「マナちゃん」以外には 2023 年の「この星はブルー」でも使った。



・セリフを入れながらのスローモーション

テンポがいいところに入れるとお客さんが驚いて、ひきつけられる。マナちゃんが階段を降りるときも、同様のスローモーションを入れた。



- ・音を立てて人がロッカーから現れる。
集団演技になるので、動きがすごく面白くなる。
マナちゃんがチョコキで鉄砲を撃つシーン、コンビニの店長が怒鳴るシーンも同じような集団演技の動きが現れる。



- ・ぬいぐるみを使って門をつくる
意外性とミザンスの良さ。想像力を使うことで、お客さんのが楽しくなる。
この後、門の方から、動いていくことで、マナちゃんが引きこもりから脱するシーンを表現する。
この後門がすぐなくなるのもきれい。



- ・二人が同じ動作で、主人公に迫る。
必要ない人物も同じ動作で、セリフに乗っかるように足音立てて迫るのが面白い。



- ・無生物の真似をする
セットで用意できないものを、その場でセリフのない役者が演技で表すことが面白い。今回はピラミッド。このあとスフィックスが来る。



- ・くると回転したら役柄が変わる
ヒロハルがくると回転すると、生徒から先生に代わる。プロの劇でも時々見る演劇ならではの手。
リナも後半この回転を2度使っている。



- ・ベッドがバスに変化

シンプルな箱の並べ方、積み方を変えることで、別のものに見える。観客はなんだかうれしくなる。

この後、ベッドを使った船も出てくる。



- ・人間をオブジェに使う

単色の服を着た人物が、背中を見せて動きを止めることで、オブジェに見える。絶対に暗転せず、袖幕をできるだけ使わないほうが、カッコいい。



- ・全員でお客さんの方を向いて走る

お決まりだがすごく楽しい。走り方も個性が出て面白い。高校演劇ではたびたび見る。この後、マナちゃんを探すシーンも「あ、あ、あ、待てえ」声をそろえてすごく楽しい。



- ・同じポーズで、同じセリフを強く言う。

「僕たちは一緒に行こう…」銀河鉄道の夜のセリフをユニゾンでいう。すごくインパクトのあるシーンになる。



・布団をマントのように巻き付ける。

演出が「真夜中の帝王マナちゃん」と呼んだシーン。たぶんその前の駆け回って大笑いするところまでは脚本にあるが、そこからベッドの上に立ち上がらせて、布団を巻き付けた演出が秀逸。

さらにそのあと、上手中下手に指でっぽうを打ちまくるシーンが来る。最後に自分の頭を打つ。クライマックスにふさわしい演出。



・扉から出るときにスモーク

いきなり戦場になるので、煙を使った。赤い照明、音響の銃声と相まって、緊張感の高いシーンができた。

灯籠をリモコンで点滅させるのも効果的。



・マナちゃんが扉を開けると、夢の中の二人が顔を出す。

二人が顔を出すことで、夢の世界の楽しさが強調される。演劇って夢なんだ、というテーマが伝わる。お客さんの創造を超えたラストになった。最後に緞帳が残るまで残ったロッカーの暗闇も効果的だった。



最後に:当時の演出さんの演出ノートから

・いろんな場面でマナちゃんは成長していき、それを表情で演じ分けるようにする。

・マナちゃんは冒頭は何も考えていない天真爛漫少女だが、後半はやや深刻さを帯びた少女にする。

- ・マナちゃんの驚きっぷりをデフォルメして、どんどん周りから置き去りにされてる感を出す。
- ・ヒロハルを撃った時の感情と、兵士を撃った時の感情は違う。ヒロハルを撃った時はただの驚きだが、兵士を撃った時は自分に恐怖するようにする。
- ・ボートをこぐシーンが一番深いところにする。呼吸をするように言葉を紡ぐ感じ。
- ・これからやるべきこと
 - ① この劇で伝えたいことを共有。
 - ② ミスをなくす。粗を取る。
 - ③ リズムの改善。
 - ④ 平台の使い方、光る灯籠の使い方、SEを増やす。